

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
『東京文化財研究所年報』（*企08）	企画情報部	87
『東京文化財研究所概要』（*企08）	企画情報部	87
『東文研ニュース』（*企08）	企画情報部	87
平成22年版日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（調査・研究成果の公開）（企09）	企画情報部	87
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	87
「保存科学」51号の出版（保04）	保存修復科学センター	88
第34回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（セ07）	文化遺産国際協力センター	88
『李唐萬壑松風図光学検測報告』（*企05）	企画情報部	88
『平等院鳳凰堂仏後壁 光学調査報告書』（*保01）	保存修復科学センター	89
『日韓共同研究報告書2011』（*修01）	保存修復科学センター	89
『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2011年度』（*修03）	保存修復科学センター	89
『建築文化財における塗装材料の調査と修理』（*修03）	保存修復科学センター	89
『音声・映像記録メディアの保存と修復』（*修04）	保存修復科学センター	90
Conservation and Restoration of Concrete Structures（*修04）	保存修復科学センター	90
『各国の文化財保護法令シリーズ[12] イタリア』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	90
『各国の文化財保護法令シリーズ[13] エジプト』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	91
『各国の文化財保護法令シリーズ[14] ベトナム』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	91
アジア文化遺産国際会議報告書『西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題—』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	91
The Cultural Heritage of West Asia – Current State and Issues for Protection –（*セ01）	文化遺産国際協力センター	91
『国際資料室蔵書目録』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	91
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2011』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	92
『東南アジア諸国文化遺産保存修復協力』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	92
Laporan Workshop Mengenai Rekonstruksi Warisan Budaya Bersejarah Kota Padang（*セ03）	文化遺産国際協力センター	92
『パーミヤーン遺跡資料集1 パーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970年代』（*セ04）	文化遺産国際協力センター	92

Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2009, 2010 - 9th and 10th Mission - (*セ04)	文化遺産国際協力センター	93
『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ、カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）』（*セ04)	文化遺産国際協力センター	93
『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2010年度（第8次～第10次ミッション）』（*セ04)	文化遺産国際協力センター	93
Preservation of the Buddhist Monastery of Ajina Tapa, Tajikistan, Report on the Archaeological Investigation of Ajina Tapa (2006-2008) (*セ04)	文化遺産国際協力センター	93
『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—第2窟、第9窟壁画のデジタルドキュメンテーション—』（*セ04)	文化遺産国際協力センター	94
『海外における日本の装潢修理技術利用に関する研究会』（*セ05)	文化遺産国際協力センター	94
『文化財の保存環境』（*保05)	保存修復科学センター	94

- *注
- ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。
 - ・『李唐萬壑松風図光学検測報告』は、文化財デジタル画像形成に関する調査研究（①企05）の一環として実施した。
 - ・『平等院鳳凰堂仏後壁 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保01）の一環として実施した。
 - ・『日韓共同研究報告書2011』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修01）の一環として実施した。
 - ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2011年度』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①修03）の一環として実施した。
 - ・『建築文化財における塗装材料の調査と修理』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①修03）の一環として実施した。
 - ・『音声・映像記録メディアの保存と修復』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①修04）の一環として実施した。
 - ・Conservation and Restoration of Concrete Structuresは、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①修04）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[12] イタリア』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[13] エジプト』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[14] ベトナム』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・アジア文化遺産国際会議報告書『西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題—』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・The Cultural Heritage of West Asia – Current State and Issues for Protection – は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『国際資料室蔵書目録』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環と

して実施した。

- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2011』は、東アジア諸国文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
- ・『東南アジア諸国文化遺産保存修復協力』は、東南アジア諸国文化遺産保存修復協力（②セ03）の一環として実施した。
- ・Laporan Workshop Mengenai Rekonstruksi Warisan Budaya Bersejarah Kota Padang は、東南アジア諸国文化遺産保存修復協力（②セ03）の一環として実施した。
- ・『バーミヤーン遺跡資料集1 バーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970年代』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
- ・Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2009, 2010 - 9th and 10th Mission - は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
- ・『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ、カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
- ・『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2010年度（第8次～第10次ミッション）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
- ・Preservation of the Buddhist Monastery of Ajina Tapa, Tajikistan, Report on the Archaeological Investigation of Ajina Tapa (2006-2008) は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
- ・『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—第2窟、第9窟壁画のデジタルドキュメンテーション—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
- ・『海外における日本の装飾修理技術利用に関する研究会』は、文化財保存修復手法の国際的研究（②セ05）の一環として実施した。
- ・『文化財の保存環境』は、保存担当学芸員研修（⑤保05）の一環として実施した。

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、61頁を参照。

平成22年版日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（調査・研究成果の公開）（⑥企09-11-1/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成22年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成22年版は、B5判479ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、皿井舞、江村知子、中村節子、河合大介（以上、企画情報部）

『美術研究』

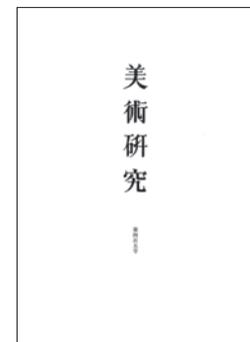
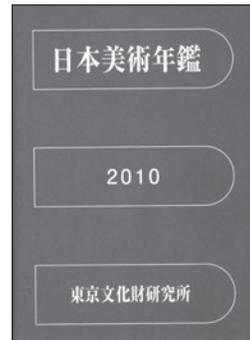
1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は404号、405号、406号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-11-1/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』（⑥無04-11-1/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第6回にあたる本年度は「震災復興と無形文化一現地からの報告と提言」



⑥刊行物 Area15,16,17

をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

「保存科学」51号の出版 (⑥保04-11-1/5)

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。



第34回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (⑥セ07-11-1/1)

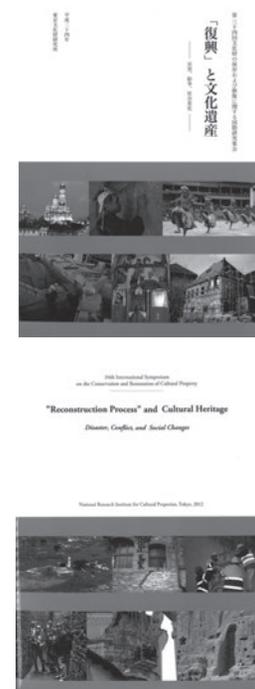
第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「復興」と文化遺産—災害、紛争、社会変化—

182ページ

34th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property, "Reconstruction Process" and Cultural Heritage —Disaster, Conflict, and Social Changes—

198ページ

本書は、平成23年1月19日から21日までの3日間にわたり開催された国際シンポジウムの成果論文集である。災害、紛争、社会変化という3つのテーマに基づき、各発表者による読み上げ原稿、音声録音記録への加筆修正、新規書き下ろし原稿を掲載している。日本語版と英語版の2冊を刊行した。(2012年3月)



『李唐萬壑松風図光学検測報告』(①企05の一環として実施)

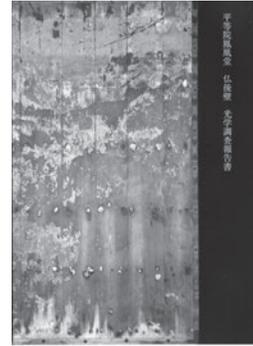
企画情報部では2004年から国立故宮博物院との共同研究を始め、光学的調査方法を活用して、同院所蔵の貴重な書画作品について調査を行ってきた。その成果として『懷素自叙帖検測報告』(国立故宮博物院、2005年)、『孫過庭書譜光学接影検測報告』(国立故宮博物院、2008年)を刊行し、同院での「大観—北宋書画特展」でのパネル展示などを行った。

これらに続く調査報告書として今年度は李唐筆「萬壑松風図」に関する共同調査研究の成果を刊行した。この調査での当所の役割は光学的方法による絵画表面の画像情報化とその検証であった。様々な波長の光に対する物質の反応の違いを画像として記録することにより、作品を構成する素材の様子を明瞭に可視化し、絵画表現のあり方についての分析や制作されてから今日までの作品の生涯を考察する上での基礎的資料を得ることができた。B4判、194頁



『平等院鳳凰堂仏後壁 光学調査報告書』(①保01の一環として実施)

本書は、平成16～17年にかけて平等院と共同で行われた鳳凰堂仏後壁の調査成果報告書である。平成20年度にカラー画像編、平成21年度に近赤外線画像編、平成22年度に蛍光画像編を刊行済みであり、第4冊目の本書では蛍光エックス線分析結果を掲載するとともに、さまざまな画像を紹介しながら光学調査によって明らかになった成果を報告した。



『日韓共同研究報告書2011』(①修01の一環として実施)

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書である。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所と共同で刊行した。



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2011年度』(①修03の一環として実施)

本書は、修03プロジェクトである「伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究」の本年度の活動内容のうち、代表的なものをまとめた報告書である。

本プロジェクトでは、これまで伝統的な文化財修復材料の適用や適正な文化財修復に対する使用方法の構築、さらには合成樹脂の適用や見直し調査などを目的としている。本年度の報告書では、(1)表装裂試料データのデジタル化、(2)絵画修復に用いられたポリビニルアルコールの除去における酵素の利用可能性、(3)関西大学博物館所蔵重要文化財縄文鉢土器ほかの修復報告、(4)都久夫須麻神社本殿の取り外し蒔絵部材の塗装修理、(5)都久夫須麻神社本殿の木彫彩色材料に関する調査報告、(6)建築文化財の塗装修理材料としての漆の使用状況調査、などの調査報告、さらには本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨や総合討論、アンケート結果を掲載した。



『建築文化財における塗装材料の調査と修理』(①修03の一環として実施)

本書は、「建築文化財の塗装材料の調査と修理」について、第1章から第5章にかけて文化財科学、建築塗装史、分析科学、修理技術、文化財行政、それぞれの分野の専門家の近年の調査成果をまとめたブックレット方式の刊行物である。建築文化財の塗装材料は、日光東照宮などの近世霊廟建造物に代表される漆塗料、多くの寺社建造物の外観塗装や彩色塗装に使用されている膠塗料、一般の民家建造物で多用されてきた乾性油系塗料や柿渋、鉄漿染、チャンなどその他の伝統的な塗料、さらには厳島神社社殿群などの特異な環境条件に適應するために使用される新素材である合成樹脂など多岐に渡る。本書ではこのうちの漆塗料と乾性油系塗料を中心に



⑥刊行物 Area17

取り上げている。なお本書の骨子は、平成21年度と平成23年度に開催した第3回と第5回の「伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会」の内容を踏まえている。

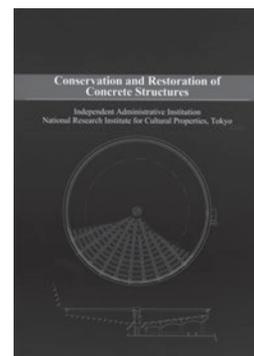
『音声・映像記録メディアの保存と修復』（①修04の一環として実施）

本書は、2011（平成23）年1月14日に東京文化財研究所で開催した音声・映像記録メディアの保存と修復に関して、各種音声・映像記録メディアの紹介及び保存状況や修復事例の紹介から始まり、行政の立場から文化庁美術学芸課の岡部氏、保存する立場の現場から東京国立近代美術館フィルムセンターのとちぎ氏、セルロイドハウス横濱館の松尾氏のお方、さらには、修復のワークショップを通じて皆さんに映画フィルムの楽しみ方を広めておられる大阪芸術大学の太田氏、レコード音源の修復作業に携わっておられるログオーディオの坂本氏、加えて、ベルリン技術経済大学で写真の修復を教えていらっしゃるカースティン・バーテルス氏に、それぞれの立場からご講演頂いた内容をまとめた物である。平成23年度発行。



Conservation and Restoration of Concrete Structures（①修04の一環として実施）

本書は、2010（平成22）年3月に発行した、「コンクリート構造物の保存と修復」の英訳版である。国内でのコンクリート構造物の保存事例の紹介から始まり、文化庁参事官室（建造物担当）の西岡氏からコンクリート構造物の指定状況やそれらの保存状態に関する報告、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の小林氏から秋田池田氏庭園内の洋館の修復事例の紹介、正栄建装株式会社の南里氏及び清水建設技術研究所の松波氏から民間業者が実施した文化財としてのコンクリート構造物の修復事例を紹介して頂いた。海外からは、ドイツ技術博物館のアルフレッド・ゴッドバルト氏からベルリン近郊のコンクリート構造物の修復事例や保存状況、文化財研究所長のロルフ・フーマン氏からヨーロッパに於けるコンクリート構造物の保存状況や修復に関わる問題点や活用に関するお話を頂いた。平成23年度発行。



『各国の文化財保護法令シリーズ [12] イタリア』（②セ01の一環として実施）

本シリーズは先行の「文化財保護関連法令集」を受ける形で、2008（平成20）年度より発行を続けているA5判冊子である。諸外国での文化財保護制度を法的な面からアプローチする目的で、まず原文を収集し、研究の第一歩としてその和訳を試みている。

本冊子は、イタリア文化財景観法典を和訳したものである。（2012年3月刊行、142ページ）



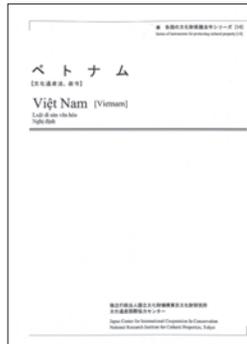
『各国の文化財保護法令シリーズ [13] エジプト』(②セ01の一環として実施)

本冊子はエジプト考古遺産法、およびその施行規則を和訳したものである。また、アラビア語の原文も併せて綴じてある。(2012年3月刊行、96+57ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [14] ベトナム』(②セ01の一環として実施)

本冊子はベトナムにおける最新の文化遺産に関する法令を、原文であるベトナム語から和訳したものである。(2012年3月刊行、58ページ)



アジア文化遺産国際会議報告書『西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題—』
 /The Cultural Heritage of West Asia —Current State and Issues for Protection—
 (Report on the Expert Meeting on Cultural Heritage in Asia and the Pacific) (②セ01の一環として実施)

本書は、2011（平成23）年3月3日から5日にわたり、東京文化財研究所において開催された、西アジア諸国5カ国を対象とする文化遺産保護現状把握のための国際研究会の成果報告書である。日本語版と英語版の2冊を刊行。(2012年3月、96ページ)



『国際資料室蔵書目録 Library Catalogue of the International Cooperation Center Archives』(②セ01の一環として実施)

本冊子は、2011（平成23）年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した595点（和漢書287点、洋書308点）の資料及び国際資料室で所蔵する雑誌475種類を掲載した目録である。(2012年3月刊行、130ページ)



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2011』（②セ02の一環として実施）

本報告は、平成23年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第6期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（5年間）の第1年目活動内容の概略を示すものである。第5期共同研究（5カ年間）の総括評価会議（9月）の開催と、2度の現地共同調査（11月、2月）、さらに中国側の来日研修（2～3月）を実施した。共同調査の成果として「第285窟壁画の顕微鏡による表面観察」「第285窟壁画の分光反射率測定」「携帯型蛍光X線分析装置による第285窟壁画に使用された材料調査」の報告4編を掲載した。また日本建築学会（6月）で発表した「敦煌莫高窟内の壁画の劣化に及ぼす塩の影響に関する研究—外界気象条件の変化、上下層窟を考慮した窟内温湿度環境の解析—」を掲載した。



『東南アジア諸国文化遺産保存修復協力』（②セ03の一環として実施）

平成23年度に東南アジア諸国文化遺産保存修復協力として、カンボジア及びタイにおいて実施した文化遺産保存修復協力、並びにインドネシア人研究者招聘事業にかかる成果をまとめたものである。（2012年3月刊行、142ページ）



Laporan Workshop Mengenai Rekonstruksi Warisan Budaya Bersejarah Kota Padang
（②セ03の一環として実施）

平成22年度文化庁委託「インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業」の成果報告書として平成23年3月に出版された『西スマトラ州パダンにおける歴史的建造物および町並み復興支援』をインドネシア語版として再編集したものである。（2011年12月刊行、71ページ+アペンディックス24ページ）



『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ、カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）』（②セ04の一環として実施）

中央アジア文化遺産保護報告集第9巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査第7巻

本書は、タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所が所蔵するアーカイヴのうち、タジキスタン共和国北部に位置するカライ・カフカハ遺跡から出土した土器と木調の資料（線画、実測図、スケッチ、写真）を収める。（2011年6月刊行）



『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2010年度（第8次～第10次ミッション）』（②セ04の一環として実施）

中央アジア文化遺産保護報告集 第10巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査第8巻

本書は、平成22（2010）年度に、タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所と東京文化財研究所が共同で実施した「タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復」事業の活動内容を報告するものである。（2011年9月刊行）



Preservation of the Buddhist Monastery of Ajina Tapa, Tajikistan, Report on the Archaeological Investigation of Ajina Tapa (2006-2008) (②セ04の一環として実施)

本報告書は、『アジナ・テパ仏教寺院考古学調査報告（2006～2008年）』中央アジア文化遺産保護報告集第7巻、日本タジキスタン文化遺産共同調査第5巻（2011年1月刊行）の英語版である。（2012年3月刊行）



⑥刊行物 Area17

『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—第2窟、第9窟壁画のデジタルドキュメンテーション—』(②セ04の一環として実施)

本報告書は、平成21(2009)～22(2010)年度にインド考古局と東京文化財研究所が共同で実施した、アジャンター第2窟・9窟壁画の高精細写真撮影、色彩計測、三次元測定の成果を報告するものである。(2012年3月刊行)



『海外における日本の装演修理技術利用に関する研究会』(②セ05の一環として実施)

文化財保存修復手法の国際的研究の一環として2012年2月16日に専門家を対象として行った「海外における日本の装演修理技術利用に関する研究会」の講演会および討論会の日本語英語併記の議事録である。日本の紙本文化財修復技術の海外における利用や、また利用するに当たり問題になる材料や道具の入手法などの題材を取り扱っている。



『文化財の保存環境』(⑤保05の一環として実施)

大学における学芸員養成科目の改正に伴い、「博物館資料保存論」が新設された。この改正に対応するために、博物館・美術館保存担当学芸員研修資料から保存環境に関する部分を抜き出し、教科書の執筆と編集を行った。読者層としては、博物館学取得希望の大学学部生、教員、学芸員を想定している。

